

アレルギー性鼻炎・花粉症の手術治療

■手術を考慮する場合について

手術を行う最も大きな目的は鼻づまりの改善です。くしゃみ、鼻水に対しても効果は期待できませんが、これらの症状は内服薬が比較的効きやすい症状です。一方、鼻づまりは薬の治療で充分改善しないことがあります。このような場合、すなわち他の治療で改善しない鼻づまりの強い症例が手術の対象になることが多いです。

最近では鼻詰まりのみでなく、鼻水、くしゃみを同時に改善することを目的とした手術もあります。いずれにしても、アレルギー性鼻炎に対する手術は、治療の第一選択ではなく、他の治療で改善しない場合に考慮すべきと考えられます。

■手術の種類について

主な手術は右の表に示しています。

ほとんどの手術は鼻の中にある下鼻甲介という粘膜ヒダに対する手術です。

方法や使用する器具はいろいろですが、いずれも粘膜ヒダの容積を縮小させ、かつアレルギー反応を起こしにくくすることが目的です。

現在最も多く行われているのはレーザー手術です。当院でもレーザーを用いて手術を行っています。

また、レーザー、電気凝固などは入院せず外来通院で可能ですが、粘膜下鼻甲介骨切除術、鼻中隔矯正術、後鼻神経切断術は通常入院が必要です。

レーザー手術 電気凝固 超音波メス 後鼻神経切断術 粘膜下鼻甲介骨切除術 鼻中隔矯正術
--

■レーザー手術について

鼻の中に麻酔薬と出血を減らす目的で血管収縮薬を含ませた綿花を入れて10～15分待っていただきます(麻酔の注射は必要ありません)。その後綿花を抜いて、左右両側の下鼻甲介粘膜にレーザーを当てます。実際にレーザーを照射している時間は両側合わせても15分前後です。もし、途中で痛みがあれば、最初と同じように麻酔液等を含ませた綿花を再度入れて追加の麻酔が可能です。通常このような方法でほとんど痛みを感じることなく手術ができます。当院ではこれまで痛みのために途中で中止した方はありません。

レーザー手術ではほとんど問題になるような出血はありませんが、念のため血管収縮薬を付けた綿花を入れて10分程度待っていただいた後、綿花を除去し出血がないことを確認して帰宅していただきます。

手術を行う時期ですが、例えばスギ花粉症の方の場合は、花粉が飛び始める約1か月ないし2か月前に1回行うことをおすすめしています。したがって、12月または1月頃に行っています。通年性アレルギー性鼻炎の場合はいつ行ってもよいと考えます。

レーザー手術が可能な年齢についてですが、鼻の中に麻酔の綿花を入れたりする鼻の処置が可能であることが基準になると思います。鼻処置の際にいやがって動いたりするようであれば、麻酔が充分行えないのと、何よりもレーザー照射中に動く危険だからです。このようなことを考えると小学校中～高学年以上と思います。



■レーザー手術後の注意について

手術当日は入浴は控えて下さい（シャワーはかまいません）。翌日からは出血がなければ入浴も可能です。鼻はかんでもかまいませんが、当日はあまり強くかまないで下さい。また、鼻の中はティッシュペーパーなどで触らないでください。触ると出血しやすくなります。水泳は手術後1～2週間は控えた方がよいと思います。プールの水が鼻に入ると刺激になったり、感染の原因になったりすることが考えられます。

手術後は粘膜表面にしばらく傷が残ります。レーザーで粘膜が軽く腫れたり、傷の部分にかさぶたのような物が付きやすいので、手術後約1週間はむしろ鼻がつまり易かったり、やや粘り気のある鼻水が出やすかったりします。しかしこれは一時的なもので心配ありません。もしこのような症状で調子が悪いようであればいつでも受診してください。

手術後1週間を経過しますと次第に腫れやかさぶたの付着も少なくなります。粘膜がほぼきれいに再生するには1か月程度要すると言われていています。

当院では手術翌日あるいは2日後に一度受診していただき傷の状態や出血の有無を確認します。感染予防の抗生剤は通常投与していませんが、問題ないと思われれます。その後、約1週間に1度程度診察させていただき、粘膜がきれいになれば手術後の診療は終了です。

当院ではこれまでの治療内容やその効果、また一人一人の症状を聞き、それに加えてレーザー手術の上記のような内容を充分ご説明します。その結果、納得、同意をいただいた方に行っています。